

令和7年度

学校評価

及び

学校関係者評価



令和8年3月

浜松市立和田小学校

# I 「知」知育向上プラン 「学びあう子」の育成のために

## 1 昨年度の実態

昨年度末の教育課程において、本校の児童の実態を以下のように捉えた。

- 与えられた課題に一生懸命取り組むことができる。
- 友達の考えを共感的に受け止めることができる。
- 情報機器の扱いに慣れており、タブレットを使用した学習効果が高い。
- ▲ 学習に対して受け身な児童が多い。
- ▲ 目標や課題に対して向上心をもって粘り強く取り組むことが苦手。
- ▲ 自分の考えや思いを表現することに課題がある。
- ▲ 聞く姿勢が身に付いていない子がいて、取り掛かりに時間がかかる。

## 2 今年度の取り組み

### (1) 授業改善の推進

本校の目指す子供像である「学びあう子」の具体として「課題を見つけ、自分の考えをもつ子」「考えを発表し合い、話し合うことで深め合う子」「ねばり強く学習に取り組み、達成感を感じ、自分を高める子」としている。本校の児童は、学習に対して受け身な児童が多いため主体的に学ぶ児童を育てる必要があると考えた。そこで、児童が課題に対して、「興味関心をもつ」「自分事として考える」「見通しをもつ」「粘り強く取り組む」「振り返り、次につなげる」ということを実践できるようになれば主体的に学習に取り組むことができると考え、取り組みを行った。

#### ① 基礎基本の確実な定着

- ・ 「守ろう学習のやくそく」をもとに、落ち着いて授業が進められるように環境を整える。
- ・ 家庭学習を習慣づけるために「家庭学習の手引き」を配付し、子供たちに意識付けするとともに、保護者に家庭での見届けや励ましの大切さを啓発する。
- ・ ドリルパークなど ICT 機器を活用して足りない部分について補充学習できるようにする。

#### ② 育成したい資質・能力と児童の実態を踏まえたカリキュラム・マネジメントと単元構想

- ・ 単元構想を学年で話し合い、同じ歩調で授業を進められるようにする。
- ・ 単元全体を見通したり、教科横断的な単元の計画を行ったりする。また、子供と単元計画を共有することにより、子供自身が学習方法や進め方を選択できるようにする。
- ・ 経験や担当学年の違う教員で3人組を作成し、お互いの授業を見合い、研究を進められるようにする。

#### ③ ICT の活用

- ・ ICT 機器の使用、活用方法等についての研修を行い、個に応じた支援に生かす。
- ・ 子供たちが週に1回程度タブレット端末を家庭に持ち帰り、家庭で ICT 機器を活用した家庭学習を行うようにする。教師は、情報活用年計をもとに、子供の実態に合わせて課題を設定する。

### (2) 発達支援教育の充実

#### ① 児童理解と個に応じた指導

- ・ 「心の日」で紹介されるエンカウンターを学級で積極的に取り入れる(学活の年計)。
- ・ 発達障害の特性をふまえ、授業UDや発達支援教育について全体研修で理解を深める。
- ・ 通級指導教室の参観期間を設け、子供の様子を見取る。その際、参観の視点の共通理解を図

り、学級での支援(課題の与え方や声のかけ方、資料の提示方法など)に生かすことができるようにする。

- ・ 児童の個別ファイルを活用して「学級」「あんず」「保護者」と意見交換をする。

### 3 成果と課題

#### (1) 授業改善の推進

##### ① 基礎基本の確実な定着

- ・ 「守ろう 学習のやくそく」をそれぞれのクラスに掲示することにより、校内で学習基盤の定着を図ることができた。その中で教科書やノートの他に、机の上には鉛筆と赤青鉛筆、下敷きだけを準備することにより、学習に集中できる環境を作った。また、「家庭学習の手引き」を配付することで家庭学習を行う際に、気を付けるポイントを意識させた。
- ・ 1~3年生は計算カードを宿題として取り組み、基礎的な学習の定着をすることができた。
- ・ 1、2年生はMIMを使用し、特殊音節の練習を行い、読み間違いや文字を飛ばして読んでしまう子が気を付けられるようになった。

##### ② 育成したい資質・能力と児童の実態を踏まえたカリキュラム・マネジメントと単元構想

- ・ 社会科6年「戦国の世から天下の統一へ」の単元では、「織田がつき、羽柴がこねし天下餅、座して食らうは徳川」の言葉はそれぞれの武将のどのような取り組みを指しているのかを考える授業を行った。それぞれの児童が、自分が調べたい武将から調べたことにより意欲的に調べることができた。調べる際には、教科書や資料集を使ったり、タブレットで調べたりすることで情報を取捨選択することを行い、自らの力で進めることができた。その後、児童がタブレット上でそれぞれが行った政策などをまとめ、言葉の意味について考える授業を行った。



- ・ 外国語科の学習では、単元構想を入れた学習シートに振り返りを書かせるようにした。見通しをもって学習に取り組むことができた。

##### ③ ICTの活用と家庭学習との関連

- ・ ドリルパークなど、ICT機器を活用して足りない部分について補充学習できるようにした。
- ・ 家庭に持ち帰る際に外国語のリスニング問題やスピーキングテストをアプリ上で録画した。
- ・ 音楽科や図画工作科の学習では、自分の作品や演奏をタブレットで撮影して友達と共有することで客観的に作品を見たり、振り返りを行ったりすることができた。また、家庭にタブレットを持ちかえり、作品について考える機会をつくり、児童が自分の作りたいものをイメージしながら意欲的に活動に取り組むことができた。
- ・ 授業でタブレットを活用して学習を行う際に、他者参照をしたり、思考ツールを使って自分の考えをまとめたりした。



- ・「ことわざ」の意味調べをグループでタブレットを使って行った。共同編集したため、分担・相談しながら学習に取り組むことができた。
- ・情報モラルの年間指導計画をもとに、それに沿って指導を行ったため、スムーズに指導をすることができた。

#### ④ 学校生活アンケート結果の比較(R6→R7)

<u>わたしは、学習したことがよくわかっている。</u>		
児童	90.5%→91.6%	(+1.1)
保護者	77.0%→77.7%	(+0.7)
<u>わたしは、やるべきことを進んでできる。</u>		
児童	87.9%→89.5%	(+1.6)
保護者	66.0%→63.2%	(-2.8)
<u>わたしは、人の話をしっかりきき、自分の考えを話すことができる。</u>		
児童	83.6%→85.8%	(+2.2)
保護者	70.4%→67.2%	(-3.3)
<u>わたしは、生活や学習の中で、チャレンジしがんばっていることがある。</u>		
児童	88.6%→89.6%	(+1.0)
保護者	77.7%→77.9%	(+0.2)
<u>わたしは、タブレット端末を使うと授業や家庭学習がわかりやすくなる。</u>		
児童	87.3%→88.6%	(+1.3)
保護者	85.3%→84.4%	(-0.9)
<u>先生は、学習がよく分かるように教えてくれたり、手助けしてくれたりする。</u>		
児童	95.0%→96.1%	(+1.1)
保護者	72.4%→71.0%	(-1.4)

- アプリの共有スペースを使うことで意見をまとめたり、友達の見解と比較したりすることが容易になったため、意見交流が活発になった。
- 計画や振り返りをパソコン上で行ったため、子供は自分の学習がどの程度進んでいるかを把握でき、教員もそれぞれの児童がどの程度理解しているかの把握をするのに役に立った。
- 自分の考えを提出するときに、カードの色を変えて提出させたので、子供同士が考えを比較するのに役立った。
- 調べる内容について自分で選択したり、調べ方を選択したりしたことで主体的に学習に取り組むことができた。
- ▲ 子供は数値として上がっているが、保護者の方はタブレット端末の活用や話を聞くことに課題を感じている。タブレットの活用年計や基本的な学習習慣を身に付けるということに課題がある。

## (2) 発達支援教育の充実

### ① 児童理解と個に応じた指導

- ・ 通級指導教室である「あんず1・2」、発達支援教室である「あんず3」と連携を図り、個別の支援を必要としている児童に、個に合った指導を行った。あんずファイルを通して、あんず教室での指導内容を担任、保護者と共有した。また、コメント欄を用いてあんず教室、学級、家庭での様子への共通理解を深め、指導に生かした。
- ・ 漢字の苦手な児童に対して、様々な手立てを用意し、自分に合う方法を選んで漢字を覚える練習をした。漢字が書かれたペットボトルキャップを、読みが書かれたプリントに並べることを繰り返し、並べて確かめる活動では、回数を重ねるごとに、覚えた漢字が定着する様子が見られた。さらに、読みキャップで10個→20個と正解読みが定着してき

たため、書く活動に移行すると、書くことができる字が6文字→10文字→12文字と正解が増えていった。また、漢字の意味のイラストが描かれたフラッシュカードで、漢字の意味、読み、熟語を確かめる学習では、漢字の意味を正しく答えられるようになっていった。また、意味や熟語の話をする中で、「あ、この字はこういう話をしていたときの字だね」というエピソードで記憶する様子も見られた。



### (3) 全国学力調査の結果

日時 令和7年4月17日(木)

対象 6年生

教科 国語・算数・理科

《平均正答率》

	全国	浜松市	和田小学校の状況
国語	66.8	67.0	全国平均を若干上回る
算数	58.0	58.0	全国平均を若干下回る
理科	57.1	56.0	全国平均を若干下回る

#### 〔考察〕

##### ① 国語

解答傾向は、問題による多少の差異はあるが、国や県とほぼ同様である。

○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する問題の平均正答率が、国・県の平均正答率を上回った。

○ 文章全体の構成を捉えて用紙を把握して回答する問題の平均正答率が、国・県の平均正答率よりも10%以上上回った。

▲ 漢字を正しく使う問題の平均正答率が、国・県の平均正答率をやや下回った。

▲ 無回答率が全国、県に比べやや高かった。

##### ② 算数

解答傾向は、問題による多少の差異はあるが、国や県とほぼ同様である。

○ 「測定」「データの活用」に関する問題の平均正答率が、国・県の平均正答率を上回った。

▲ 「図形」の領域の正答率が、県・国の平均正答率を下回った。

▲ 無回答率が全国、県に比べやや高かった。

##### ③ 理科

解答傾向は問題による多少の差異はあるが、国や県とほぼ同様である。

○ 知識・技能に関する問題の平均正答率が、国・県の平均正答率と同等、もしくは少し上回った。

▲ 「生命」に関する問題の平均正答率が、国・県の平均正答率を下回った。

▲ 記述式の問題の平均正答率が低く、無解答率が高かった。

#### 【質問紙からみた傾向】

各教科の調査とともに、児童の生活習慣や意識に関する質問調査も例年のように実施された。本年の傾向として、「朝食を食べているか」「同じ時刻に寝ているか・起きているか」など基本的

な生活習慣でよい回答をしている児童の割合が高かった。「自分にはよいところがあるか」「先生は、よいところを認められているか」の質問では「当てはまる」と回答した児童が国・県に比べ高く、自己肯定感の高さが見られた。また、「学校に行くのは楽しいか」の質問でも「当てはまる」と回答した児童は国・県が50%前後だったが、本校では70%以上の回答があり、「どちらかといえば当てはまる」と合わせると97%に達した。「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいか」の質問でも肯定的な回答をした児童が多かった。

一方、授業で学んだことを次の学習に生かすこと、進んで学習に取り組むことについては、国・県と比べると意識の低さが見られた。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだか」「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしたか」の質問では、肯定的な回答は70%程度だった。また、授業でのICTの活用については、使用回数や活用方法について、国・県の回答よりも下回った。

今後の学習では、子供たちが自分で考え自分から取り組めるように、個に応じた学習の仕方を選んだり、いろいろな学び方を伝えたりするようにしていく。そのためにも今まで以上にICTを有効に活用し、一人一人の学習を充実させていきたい。

国語・算数・理科の調査結果と結び付けて考えると、与えられた課題に対しては一生懸命に取り組むが、それ以上を求めたり、進んで取り組んだりすることが課題だと考えられる。本校の子供たちのよさを消すことなく、これらの課題を改善していけるように、授業改善を進めていく。

#### 4 来年度に向けての取り組み(改善点)

##### (1) 校内研修を通して

- ① 自分で学習の方法や形態を選択できるようにすることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ② 全国学力学習状況調査の結果から進んで取り組んだり、与えられた課題以上のことを求めたりすることに課題が見られる。そのため、普段の授業の中で児童自身が自己調整しながら学習を進めていくことができるように、教師が児童一人一人に応じた学習課題を提供し、それぞれの学習が最適となるように工夫する。
- ③ 自分の考えをきちんと伝えられるようにするため、家庭で学習課題について考える時間を設定したり、ICTを活用したりする。
- ④ 情報モラル年計を参考にしながら、子供たちの学習が深まるようにICTを使うだけでなく、有効的に使える場面を考えながら活用していくようにする。

##### (2) 授業・日々の活動の中で

- ① 基礎基本の定着を図るために、授業の規律を見直し、学習習慣も定着させる。
- ② スモールステップや学習のパターン化で「やればできる」「できた」が実感できる授業を行う。
- ③ 学習の目的に合わせてICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。
- ④ 学習に集中して取り組めるようにするために、授業UDを進めていく。

## Ⅱ「徳」徳育向上プラン「認めあう子」の育成のために

### 1 昨年度の実態

- 異学年間では、優しさや思いやりにあふれる姿が見られる。
- 挨拶の習慣が身に付いてきた児童が多く見られる。
- 楽しく元気に学校に通っている児童の割合は多い。
- 教師と児童の関係は良好である。
- ▲ 同学年間で配慮に欠ける言動が見られる。
- ▲ 挨拶ややるべきことなどでは、児童の自己評価は高いが、家庭や地域の中では進んで実践できていない。
- ▲ 教師に相談しにくいと感じている児童が多い。
- ▲ 教室が楽しく、安心できる場所ではないと感じている児童の割合は、学年による差が大きい。

### 2 今年度の取り組み

#### (1) 心の教育を推進する道徳教育・特別活動

##### ① 道徳科の授業の充実

- ・ 自己肯定感を高める学級掲示で、温かい雰囲気を作ることができた。
- ・ ICT や思考ツールを使用し、友達の見方や考え方を知る手立てとすることができた。
- ・ 道徳の時間を学年で揃え、価値を共有し、子供たちの実態を踏まえた授業実践ができた。

##### ② 他者との関わり方を学ぶ機会「心の日」の設定

- ・ 自己理解、他者理解を深め、児童の心の安定と成長を促すために、昨年度まで月に1回設定されていた「心の日」の回数を増やした。心の日では、エンカウンターや担当教師からのお話を行った。放送で「活動の意義」を説明してから取り組むことで、児童が目的をもって取り組むことができた。

##### ③ 異学年集団による活動

- ・ 本年度より、縦割り清掃に加えて「縦割り遊び」を実施した。この活動を通して運営学年（高学年）は、下級生に対する優しさや気遣いが見られたり、企画運営能力が高まったりした。また、異学年との交流を一層深めたことで、普段の生活でも異学年の友達と声を掛け合ったり、気にしたりする姿が見られるようになった。
- ・ 委員会主導の挨拶イベントを複数回行ったことで、低学年だけではなく、高学年も校内の挨拶が活発になった。

#### (2) 生徒指導の充実

##### ① 生徒指導対応について学校全体で共有

- ・ 年度初めに生徒指導対応の事例研修を職員全員で行った。本校のいじめ防止基本方針の確認と、状況によってどう判断、行動するかについて具体的な生徒指導事例から考え、全員が同じ歩調で対応できるよう情報を共有した。

##### ② 生徒指導上の諸問題を未然に防ぐ方法を学ぶ

- ・ 職員全員で生徒指導上の諸問題を未然に防ぐには何が大切かや、どのようなことを実践するとよいかについて学び合う校内研修を実施した。

##### ③ ほめて伸ばす指導や気持ちに寄り添う指導

- ・ 朝の会、帰りの会や学級会、学年集会の機会を活用して、子供の良いところや頑張りを教師の話や掲示物で称揚する場面を設けた。一人一人の行いを価値づけ、互いの良さを認めあうことで、優しくあたたかい雰囲気づくりを行った。

#### ④ 定期的な相談機会の確保

- ・ 夏季、冬季教育相談…年2回(夏季は全家庭、冬季は希望制)
- ・ スクールカウンセラーによる希望相談…年21日設定(12月末、延べ34人実施)

#### ⑤ 組織的な取り組みによるいじめの未然防止・早期発見、解決

- ・ いじめの早期発見のためのアンケート…年5回(5、7、9、11、1月)  
 ※内訳:はままついじめアンケート…2回(6、11月) 校内すこやかアンケート(5、9、1月)

<今年度のいじめ・不登校の実態(R6年度2学期末とR7年度2学期末の比較)>

・ 市教育委員会へのいじめ報告件数	R6:250件	R7:140件	(-110件)
・ 欠席30日以上の不登校児	R6:13名	R7:10名	(-3名)
・ 校外まなびの教室へ通っている児童	R6:3名	R7:1名	(-2名)
・ フリースクールへ通っている児童	R6:3名	R7:2名	(-1名)

### 3 成果と課題

<学校生活アンケート結果より R6→R7>

先生は、私の良いところをほめてくれる。

児童 92.6%→93.2% (+0.6) 保護者 80.4%→81.9% (+1.5)

学習や生活などについて、先生に相談しやすい。

児童 84.5%→90.4% (+5.9) 保護者 80.4%→78.8% (-1.6)

わたしのクラスは楽しく、教室は安心できる場所である。

児童 87.3%→93.2% (+5.9) 保護者 78.2%→78.4% (+0.2)

わたしは、自分から進んで挨拶をすることができる。

児童 87.9%→89.6% (+1.7) 保護者 69.6%→69.1% (-0.5)

わたしは、友達にやさしく接することができる。

児童 90.9%→93.2% (+2.3) 保護者 90.4%→93.1% (+2.7)

わたしは、楽しく元気に学校に通っている。

児童 93.1%→94.0% (+0.9) 保護者 92.2%→92.2% (±0)

- 全ての項目で児童の肯定的な回答が増えた。特に「クラスは楽しく、教室は安心できる」「先生に相談できる」のポイントが上がっている。
- 「友達にやさしく接することができる」のポイントが児童保護者双方に高い。  
 ※ 年間2回行っている「はままついじめアンケート」によるいじめの認知件数は、R5:180件、R6:120件、R7:88件と年々減少している。これは、子供たちが友達との正しい接し方を身に付けられるようになったり、子供にとって学級が安心できる居場所になっていたりすることが要因と考えられる。
- ▲ 「相談」「挨拶」のポイントが児童と保護者の評価に差がある。
- ▲ 外部の人への挨拶や校外での挨拶には課題が見られる。

#### 4 来年度に向けての取り組み(改善点)

##### (1) 道徳教育・特別活動

- ① 子供同士の挨拶や大人への挨拶を活性化するために、4月の授業で「挨拶や相手を気遣う行動の意味」を考える授業を学校全体で行い年度初めに意識を高める。
- ② 特別活動において、ただ活動するだけではなく、「計画→実行→評価→改善」のサイクルを積み重ねていく。そうすることで、自分たちで作り上げる難しさ、楽しさを味わいながら子供たちの主体性向上につなげたい。また、その際にキャリア教育4つの視点を意識して取り組ませる。(係活動、委員会活動、イベント運営など)

##### (2) 生徒指導

- ① 子供同士でトラブルを解決できる力を育成していきたい。具体的な場면을提示し、課題に対してどう考え、どう対応していけばいいかを学び、自分たちで解決できる力を身に付ける。
- ② いじめの未然防止の観点から、教科指導と生徒指導を一体的に進めたい。基礎学力の向上とともに、授業の中で互いを認め合い協同的に学ぶ場면을意図的に設定し、児童の自己有用感や人間関係形成力を育てることで、学校生活全体の安心感を高めたい。

### Ⅲ 「体」体育・安全向上プラン「きたえあう子」の育成のために

#### Ⅰ 昨年度からの課題と成果

##### (1) 体力向上の取り組み

- 運動場で意欲的に運動したり、遊んだりする児童が増えた。
- ▲ 外遊びに出る児童と、教室で過ごす児童が二極化している。

##### (2) 保健指導

- 身体測定前に保健指導をすることで、健康への意識が高まった。
- 「ぴかぴかチェック」を通して、子供たちが自分で健康に過ごそうとする考えが見られた。
- ▲ 「ぴかぴかチェック」をしても、なかなか達成率が上がらない項目がある。

##### (3) 食育指導

- 各学年の実態に応じた食育指導や給食についての放送を実施することで、食に興味をもつ児童が増えた。
- 感謝の気持ちをこめて、いただきますとごちそうさまをする児童が多く見られる。
- ▲ 食べ物が体にどのような働きをもたらすのか知らないため、苦手な食べ物を残す児童が多い。

##### (4) 安全教育

- 防災訓練、防犯訓練を通して、子供たちの危険に対する意識は高まった。
- ▲ 実際の登下校の様子からは、児童自身の行動が危険につながっていることを認識していない。

#### 2 今年度の取り組み(考察)

##### (1) 体力向上に向けての取り組み

###### ① 教科体育

- ・ 運動の楽しさを味わい、さらに挑戦したいと思える授業

運動をされていて楽しい、さらに挑戦したいと思える瞬間をより多く味わわせるために学習活動の主体を子供にした授業づくりをした。

授業での運動量を確保したり、自分の運動を振り返って次の動きに生かしたりすることで、更なる発展的な技能を身に付けることを目指した。特に、ICT機器を活用することにより、効果的に指導をすることができた。また、様々な運動に触れ、基礎的な運動能力を向上させるために、年度当初に児童にサーキットトレーニングを紹介し、授業の中で取り入れた。ただ、単元や気候の関係で実施できないこともあった。このような指導が学校全体でできるように、以下の点を重点として共通理解を深め指導した。

###### 【重点項目】

- ① 技能の高まりを実感し、進んで運動に取り組む意欲を育むための学習カードの活用。
- ② 児童が自分に合った作戦や場を選択できるように場の設定を工夫する。
- ③ 多種多様な運動領域の基礎的な力を伸ばすための補助運動の実施。
- ④ 自己を分析し、技能の高まりを促すためのICT機器の活用。

###### ② 体育的行事

- ・ 校内運動会の実施

昨年度同様に午前中で全校開催をした。児童自らが作り上げ、やり遂げられたという達成

感をもたせるために、児童を中心とした行事運営を行った。具体的には以下のような取り組みをした。また、5・6年生の応援団が各クラスに応援の仕方を教える場を設定した。当日は同じチームごとに主体的に応援をし、運動会を盛り上げた。さらに各学年から、開閉会式で頑張りたいことと、頑張ったことの発表者を選出し、活躍の機会を作った。

・ 新体力テストの実施

児童一人ひとりが自らの体力・運動能力を知るために、新体力テストを実施した。昨年度の記録を配付し目標をもたせて取り組むことができた。

令和7年度 新体力テスト結果（全国・浜松市との比較）

新体力テストの記録

【小学校男子】

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ(m)
1年	全国	8.92	11.62	26.42	27.23	17.95	11.59	116.02	8.34
	浜松市	8.76	12.30	25.89	27.22	20.03	11.58	115.26	8.73
	R7自校	8.23	13.15	25.99	26.96	18.21	11.40	113.67	8.76
2年	全国	10.47	14.20	28.41	31.06	27.26	10.69	126.53	11.80
	浜松市	10.44	14.47	27.92	30.69	27.11	10.80	125.26	11.87
	R7自校	10.93	16.80	25.73	33.93	35.52	10.48	121.36	12.47
3年	全国	12.36	16.19	30.41	34.52	34.85	10.19	135.44	15.05
	浜松市	12.14	16.25	29.93	33.51	34.57	10.26	135.12	14.76
	R7自校	12.39	18.13	29.84	36.83	32.23	10.13	135.89	17.22
4年	全国	14.30	18.17	31.87	39.07	43.71	9.70	145.59	18.95
	浜松市	13.89	18.18	32.39	37.60	41.48	9.80	143.58	18.03
	R7自校	13.41	19.03	33.00	35.97	42.18	9.58	137.00	17.41
5年	全国	16.09	19.81	33.41	42.07	50.51	9.38	154.01	21.67
	浜松市	15.87	20.08	34.71	41.54	48.00	9.40	152.65	21.00
	R7自校	15.75	23.22	33.65	43.63	52.08	9.47	151.20	22.45
6年	全国	19.31	22.45	36.48	45.91	59.96	8.90	166.56	25.67
	浜松市	19.06	21.74	36.77	44.63	55.37	8.97	165.55	24.54
	R7自校	19.26	23.16	33.52	44.91	57.15	9.06	173.51	26.43

【小学校女子】

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ(m)
1年	全国	8.42	11.07	29.06	26.35	15.29	11.95	108.22	5.69
	浜松市	8.31	11.30	29.11	26.25	16.06	11.96	107.33	5.90
	R7自校	7.88	12.70	26.45	25.61	14.83	11.89	104.24	5.64
2年	全国	9.95	13.18	30.94	29.57	21.30	11.07	117.90	7.37
	浜松市	9.87	13.42	31.31	29.56	20.70	11.24	116.43	7.75
	R7自校	10.65	16.09	29.98	33.30	23.15	10.77	115.09	9.04
3年	全国	11.65	16.12	33.18	32.92	27.59	10.43	128.02	9.47
	浜松市	11.41	15.02	33.78	31.67	25.11	10.68	125.68	9.29
	R7自校	10.92	13.26	30.34	31.66	20.14	10.72	118.86	8.76
4年	全国	13.58	17.10	35.17	37.08	33.63	10.04	136.04	11.57
	浜松市	13.41	16.88	36.29	35.66	31.02	10.21	135.18	11.44
	R7自校	14.21	18.89	38.88	36.41	34.62	10.10	138.32	12.35
5年	全国	15.99	18.86	38.34	40.38	40.01	9.64	145.38	13.56
	浜松市	15.66	18.50	38.75	39.32	37.36	9.76	143.79	13.25
	R7自校	15.64	21.76	38.87	40.16	38.07	9.91	135.18	12.58
6年	全国	19.36	20.15	41.21	42.95	45.55	9.24	155.61	15.68
	浜松市	18.77	19.51	41.92	41.84	41.61	9.38	152.98	15.56
	R7自校	17.68	20.40	37.24	40.00	42.12	9.50	153.26	16.43

※浜松市の記録と比較して自校の記録が下回っている種目は緑色になっています。

### ③ 教科外体育

- ・ 運動委員会主催のイベント

新体カテスト前には、各種目の記録向上をねらいとして体験イベントを実施した。参加児童は楽しみながら記録向上を目指して体を動かしていた。3学期には、運動委員会で考えた遊びを動画で紹介する計画を立てている。

- ・ ドッジボールコートの特設設置

運動委員会の常時活動として、毎朝、運動場にドッジボールコートのラインを引いた。子供たちが遊べる場を意図的に作ることで、外に出て遊びたい、運動したいという気持ちをもたせ、運動に親しむことができるようにした。

### (2) 保健指導

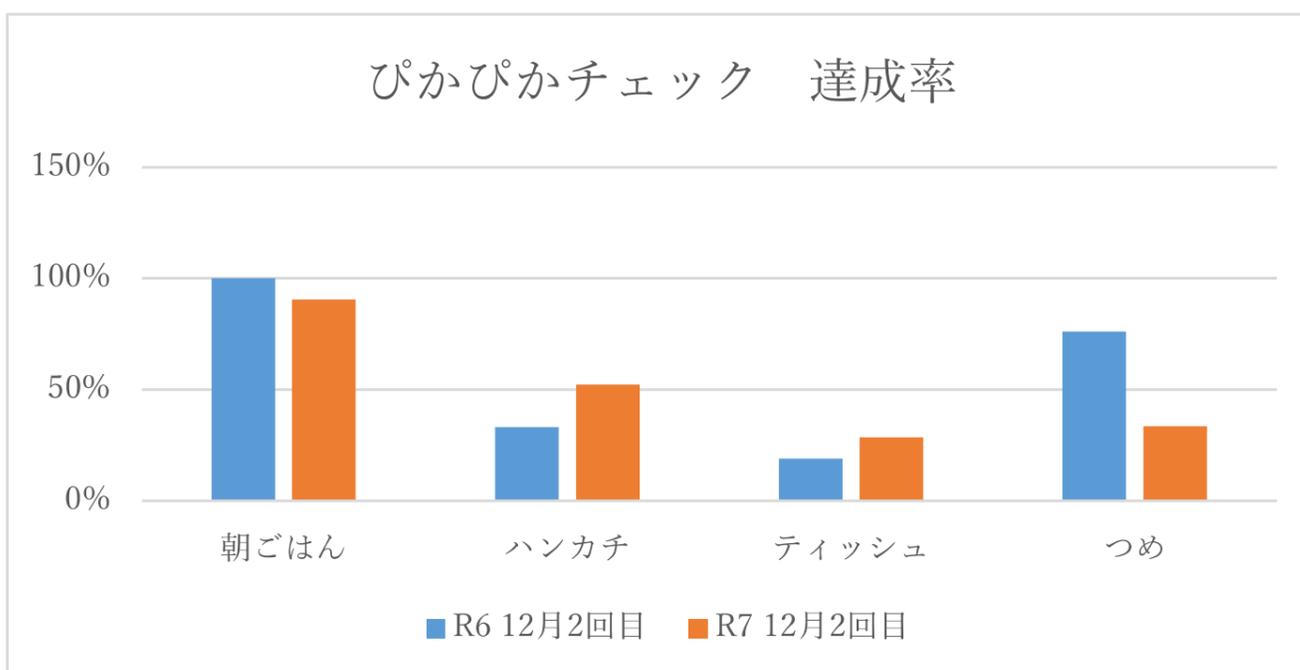
#### ① 「ぴかぴかチェック」による衛生管理指導

月2回、朝の会に実施することで、身の回りを清潔にするための意識付けをした。結果は昼の放送で保健委員会が全校に伝えた。

#### ◎ 今年度の取り組みに対する結果と考察(自己の生活習慣)

<12月2回目のぴかぴかチェックの集計結果(R6とR7の比較)>

	朝ごはん	ハンカチ	ティッシュ	つめ
R6	100%	33%	19%	76%
R7	90%	52%	29%	33%



昨年度の12月2回目のチェックでは、全校児童が朝ごはんを食べてから登校することができた。昨年度の12月1回目の取り組みの時に、もう少しで朝ごはんを食べてきた人が100%に達成しそうだったことから、朝ごはんを食べる大切さを放送で呼び掛けた。その結果、意識できた児童が多かったと考えられる。規則正しい生活を送るためにも朝ごはんを食べてから登校するという習慣は継続させたい。

ハンカチ・ティッシュの持参率が多少上がったが、まだまだ低いことが課題であると考えられる。持参する意味を、児童だけでなく保護者へ啓発することも必要だと改めて考える。

また、爪を短く切れているかの達成率がかなり減った。ハンカチ、ティッシュを持ってこようという呼びかけを今年度は多くしたため、つめを短くすることを意識する児童が減った可能性が考えられる。どれも大切な項目のため、子供たちが意識をして取り組める呼び掛けが必要である。

### (3) 食育指導

#### ① 給食の献立を活用した食に関する指導

- ・ 献立の内容を放送で紹介したり、給食室前のホワイトボードに掲示したりすることで、自分が食べているものが体を作っているもととなっていることを知ることができるようにした。
- ・ ふるさと給食週間や学校給食週間など、地域の食材や行事食の紹介をすることで、食に興味をもてるようにした。

#### ② 各学年の実態に応じた15分間指導

- ・ 朝活動の時間に栄養職員が各学級を訪問し、学年の学習内容や発達段階に応じた食に関する指導を実施した。

1年、ひまわり学級・・・「給食室のいちにち」 2年・・・「食べ物の3つの木」  
3年・・・「すがたを変えるお米」 4年・・・「食事マナーの達人になろう」  
5年・・・「朝食の大切さを知ろう」 6年・・・「骨の成長とカルシウム」

#### ③ 給食委員会での企画

- ・ 「もりもり食べて元気もりもり」をスローガンとし、給食に興味をもち、残さず食べる児童を増やすことを目的に、さまざまな企画を行った。(牛乳のよさや給食に関する〇×クイズ、ふるさと給食週間と緑茶提供日に、浜松産の食べ物の魅力についての放送及び好きな給食についてのアンケートの実施)

#### ◎ 今年度の取り組みに対する結果と考察

食に関する指導では、写真やスライドだけでなく実物を使って指導をすることで、食に興味をもち、給食を残さず食べたり、献立表を意識して見たりする児童が増えた。また、各学年の実態に応じたテーマにすることで、主体的に考える児童が多く見られた。給食委員会の企画では、給食委員会の児童が、給食における課題を自ら確認することで、より児童の実態に基づいた企画を考えることができ、よい結果が出やすいことがわかった。全ての児童を対象とした企画を行うことで、楽しみながら給食に興味をもつきっかけを作ることができた。特に残食量が多かった牛乳についての放送を行ったことで、その日以降の牛乳の残食量を減らすことができた。

望ましい生活習慣を身に付けるためにも、学校給食を題材とした食に関する指導や児童の実態に基づいた発信を行う必要がある。

### (4) 安全教育

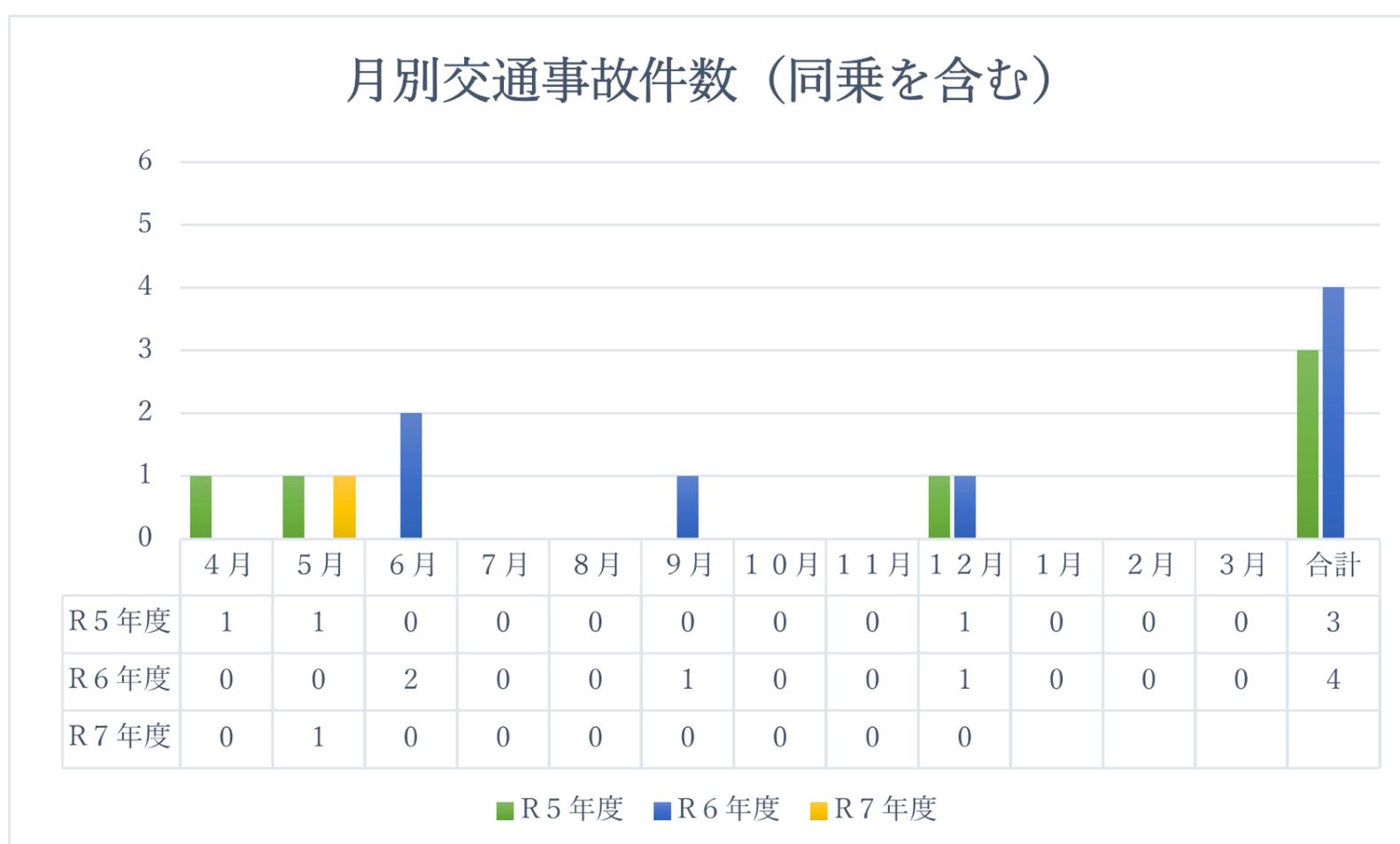
#### ① 防災・防犯・安全指導への取り組み

- ・ 年間4回の避難訓練を通して、安全な避難の仕方を身に付けることができるようにした。  
1回目・・・災害時の基本的な避難経路を指導し、避難経路を確認。  
2回目・・・地震が発生した後の2次被害(浸水)を想定した高所への避難。  
3回目・・・教員、児童への予告なしで地震の発生を告知し、避難する訓練。  
4回目・・・放送を聞き、避難所での生活について考える。
- ・ 年度当初に引き渡し訓練を実施し、家族で家までの経路を確認する時間を設けた。
- ・ 月に1回、朝活動の時間に「安全の日」を設定し、交通・防災・生活の観点から、生活場面の写真を提示したり、ワークシートを用いたりして指導した。
- ・ 各学年の実態に合わせて防災講座を実施した。  
1年「防災ダッグ」 3年「災害時判断ゲーム」 5年「家庭内DIG訓練」

## ◎ 今年度の取り組みに対する結果と考察

避難訓練を実際に行うことで、災害発生時の安全行動のとり方や、避難経路の確認ができた。特に、3回目では、児童だけでなく教員にも予告せずに避難訓練を実施したことで、新たな課題が見えた。また、余震発生時の対処の仕方を訓練し、一層、実際の災害時を想定した訓練となった。4回目については、座学での学習となった。自分が避難所へ避難したときの生活の仕方について考えた。自分が避難所で生活するときに、どう過ごせばいいかを考えることができた。防犯教室では年に1度、実際に起こりうる犯罪の事例等を必要に応じて紹介することで、防犯意識の向上を図り、判断力を養った。また、夏の職員研修では、校内に不審者が侵入してきたときの対応について確認し、防犯意識を高めた。

以下は、交通事故発生件数のグラフである。



今年度の交通事故発生件数を見ると、本年度は1件のみとなっている。今年度は、自転車での事故が発生した。毎年、放課後に自転車での事故は発生している。登校中の事故は12月までには発生していないが、危険な登下校の様子は依然として見られる。

交通安全に関する指導では、交通の日を設定し、放送やプレゼンテーションを用いて交通安全を呼び掛ける機会を設けた。歩行中や自転車を運転している時など、様々な場面において考えられる危険を提示し、危険を避けるためにはどうすべきだったのか考える活動を取り入れた。また、交通安全教室や交通安全リーダーと語る会を実施したり、実際に和田小の児童に起こった事故の状況から危険な点を考える活動を行ったりして、自分たちの登下校の様子を振り返ることができたのではないかと考える。

今後も継続して、児童が自分の登下校の様子を振り返り、より児童が自分事として考えられる指導を考えたり、日常的な指導の在り方を考えたりしていく必要がある。

### 3 学校生活アンケートの結果(R6→R7)と考察

遊びや運動で体力づくりに取り組んでいるか。

児童 84.9%→86.7% (+1.8) 保護者 77.3%→77.5% (+0.2)

健康や安全に気を付けて生活しているか。

児童 92.2%→94.4% (+2.2) 保護者 86.2%→87.3% (+1.1)

「早寝早起き朝ご飯」の習慣がついたか。

児童 79.7%→84.7% (+5.0) 保護者 76.8%→75.9% (-1.0)

アンケート結果から、外遊びの量は昨年度と比較して増加傾向にあることが分かった。外で元気よく遊ぶ様子が見られ、体力向上に対する意識も高まっていると感じる。ただし、依然として運動をしない子と、運動をしている子の差は大きくなっている傾向が見られる。

安全については、保護者、児童ともに高い数値となっているが、下校指導などの様子を見ると危険な場面を目にすることもあり、交通事故も実際に起きているため、引き続き指導が必要である。

早寝早起き朝ご飯の習慣については、児童は昨年度よりも高い数値となったが、保護者は昨年度の数値より下がっており課題となっている。日々の指導で生活習慣について呼び掛けるとともに、家庭と連携していきたい。

### 4 来年度に向けての取り組み(改善点)

#### (1) 体力向上に向けての取り組み

今年度、昨年度以上に運動場で元気よく遊ぶ姿が見られた。ただ一方で、学校でも外遊びをしなかったり、体育の授業でも十分な運動ができなかったりする児童も一定数いて、二極化が見られる。二極化改善のために、日々の体育の授業を充実させていきたいと考える。運動が苦手な児童のためにルールを易しくしたり、児童の能力に合わせて様々な場を用意したりすることで苦手な児童も積極的に運動に取り組めるようにしていきたい。また、授業外では運動委員会を中心として運動紹介をしたり、イベントを実施したりすることで児童の運動する意欲を伸ばしていきたい。

#### (2) 保健指導

今年度に引き続き、保健指導や「ぴかぴかチェック」を行うことで、生活習慣を見直したり、身の回りを清潔にしたりする意識付けをし、自ら健康であろうとする気持ちをもてるように指導していく。

#### (3) 食育指導

ホワイトボードへの食品掲示や栄養素が分かる献立の配付など、今年度同様に食品に対して興味関心がもてるようにしていく。また、栄養職員の教室巡回指導も今年度と同様に取り組むことで、より栄養の知識を持てるようにしていきたい。

#### (4) 安全指導

今年度の取り組みを継続し、安全に努められるようにする。さらに、児童の危機意識を高め、どんな場所でも自ら考え安全に過ごせるような声掛けや指導をしていきたい。

#### IV 信頼される学校づくり

##### I 今年度の取り組みと結果

###### (1) 情報発信 〈学校生活アンケートの結果 (R6→R7)〉

学校は、たよりやホームページなどで情報をよく発信している。

保護者 89.4%→91.1% (+1.7%)

学校の教育活動を多くの方に知っていただくために、毎月、学校だより「ふれあい」、や学年だより、保健だより、給食だよりなどを発行し、必要な情報を発信している。今年度も、各種たよりの多くをさくら連絡網で配信した。

日々の活動の様子を紹介するブログも、一日1投稿を目指し、令和7年度は、2学期終了時までに約200件の記事を掲載している。

###### (2) 家庭・地域との連携 〈学校生活アンケートの結果 (R6→R7)〉

学校は、学力が身に付くよう、児童に応じた学習の手助けを行っている。

保護者 72.4%→71.0% (-1.4%)

学校は、教育相談や個別面談などが充実し、相談がしやすい。

保護者 80.4%→78.8% (-1.6%)

学校は、保護者や地域と連携して、教育課題に取り組んでいる。

保護者 72.0%→78.0% (+6.0%)

6月に、参観会・懇談会を実施した。当日の参加率は、参観会が92%、懇談会が47%となった。全校一斉で1時間の授業公開であったため、大変混雑した。1学期の保護者アンケートで御意見をいただき、11月の参観会は、2時間の授業公開とした。2時間公開としたことで、「兄弟がいても回りやすかった」「混雑することなく子供の様子を見ることができた」など、保護者から肯定的な意見をいただけた。

運動会を今年度は5月に開催した。練習を通して、学年の団結力が高まったり学年のルールの共有ができたりした。一方、暑さ対策のためテントを設置したところ、保護者から演技や競技が見つらなかったという意見をいただいた。また、大幅に時間を超過してしまった。

保護者との面談、教育相談の機会は、4月のリモート面談、1学期末の教育相談（全家庭対象）、2学期末の教育相談（希望制）と当初の計画通り、定期的に行うことができた。

学校アンケートは、さくら連絡網で配信することで、約91%の保護者から回答を得られた（回答数：1学期 558/604 2学期 551/605）。結果を見ると、楽しく学校に通っている、友達にやさしくできる等の内容の質問では、肯定的な回答の割合が高かった。一方、やるべきことや挨拶、話す・聞く等の内容の質問では、肯定的な回答の割合が低かった。記述式アンケートでは、学校行事や地域の活動に対する要望が多かった。

###### <コミュニティ・スクール>

コミュニティ・スクール制度を導入し、学校運営協議会が発足してから4年が経過した。今年度から学校支援コーディネーターが2人体制になり、より多くの助力をいただくことができた。様々な教育活動に対して地域からボランティアを募ることができた。通年で活動する読み聞かせや図書館補助、学校花壇に加え、昨年度から引き続き、家庭科のミシン実習や生活科のリース作り等の学習ボランティアや学区探検の補助をお願いした。教師一人では十分な支援や見とどけができないところを、ボランティアに補助していただき、児童の学習内容の理解や安全・安心につながった。

また、地域企業や公的機関さらに地域住民の方にも協力をいただき、校外学習や講話、講座といった形で、学習内容を深める機会を多く設定、実施することができた。

### (3) 安全対策（熱中症対策） 〈学校生活アンケートの結果（R6→R7）〉

学校は、安全確保や健康管理のための取り組みを行っている。

保護者 82.5%→83.7% (+1.2%)

記録的な暑さになった今夏も、熱中症対策として運動場にテントを設置し、日陰で水分補給ができるようにした。また、昇降口にミストシャワーを設置し、周囲の温度を少しでも下げるようにした。毎日、暑さ指数（WBGT）を計測し、熱中症の危険度が高い日には、運動場の使用を制限したり禁止したりして熱中症予防に努めた。

## 2 考察

学校教育活動では、厳しい残暑やインフルエンザの流行により一部延期したものもあるが、年間計画どおりに行事や活動、校外学習などを進めることができた。日々の学校生活については、引き続き学校だよりやブログを定期的に発信することで、児童の頑張りを伝えていけるようにしたい。

保護者との連携では、定期的な教育相談の実施や日常的な連絡を進め、情報交換に努めていきたい。11月の参観会は、2時間公開にすることにより高い参加率であった。今後も保護者の参加率が上がるように懇談会の在り方も含め工夫していきたい。

地域との連携は、学校支援コーディネーターが中心となって保護者・地域に呼び掛け、生活科や家庭科、外国語活動、学区探検等の学習で多くのボランティアに来ていただき、開かれた学校運営ができたと言える。

## 3 来年度に向けての取り組み（改善点）

昨年度から保護者アンケートの選択肢の中に「わからない」という項目を設けた。その結果、昨年度よりも改善傾向はあるが、学習指導や学級の様子、教師との関わりについて「わからない」と回答した保護者が1割程度に上った。次年度も、定期的なたよりの発行、ホームページ、ブログでの情報発信に努めていくとともに、保護者の学校に対する興味・関心を高めていきたいと思う。毎月発行している学年だよりについては、これまで主にさくら連絡網での配信が多かったが、保護者の要望に応え、学校だよりと同様に紙媒体での配布も行っていく。また、保護者への連絡については、保護者の視点に立ち、より分かりやすくしていきたい。

2学期には、インフルエンザによる学級閉鎖が複数の学級であった。感染予防を徹底するとともに、長期欠席する児童への学習支援や連絡を円滑にできるように進める。今年度は、学級閉鎖中に一部オンライン授業を行い、学習の機会を設けることができた。熱中症対策は、児童の命に関わる大切な事である。教職員が危機意識を高くもち、児童への指導を徹底していきたい。

学習や学校業務については、生成AIも含めたICTの有効的な活用とともに支援員、学校ボランティアの協力を得ながら、効率化、負担軽減を目指した教育課程編成を目指していく。今後も、より一層、保護者、地域との連携を深め、教育活動、教育環境の改善・充実に努めていきたい。

## 学校関係者評価

学校関係者評価は、1月15日（木）に行われた第4回学校運営協議会の際に、運営協議会委員の皆様により実施した。

各担当職員から今年度の本校の取り組みや児童、保護者を対象とした学校生活アンケートの結果を説明、報告し、学校運営協議会委員の理解を得られた。第3回の協議会では、委員の皆様と本校の全教員が熟議をする場を設けた。熟議を通して、目指す子供の姿や培っていききたい資質・能力について共有することができ、来年度の学校経営構想立案の一助となった。

以下は、第4回学校運営協議会でいただいた御意見や御質問である。

### 【「知」知育向上プランについて】

- 学力向上に向けてAIの活用は検討しているか。  
→浜松市は教員の使用が認められたところで、児童はまだ使っていない。
- 「家庭学習の手引き」は、学年別に和田小独自に作成しているのか。  
→本校独自のものであり、学年別に作成し年度初めに配布している。

### 【「徳」徳育向上プランについて】

- 和田小の子みんなが幸せになるため（どの子も笑顔）という目標に向かって、委員会活動や係活動を行うことで主体性が高まる。
- いじめ予防について、指導後も継続して観察したり保護者に連絡してくれたりしているよ。小さなところで丁寧に見届けていることで、登校しぶりが少ない。
- 心の教育を積み重ねればいじめはなくなっていくので、「心の教育」を充実させてほしい。

### 【「体」体育・安全向上プランについて】

- 食育指導で朝活動に時間に栄養教諭が各学級を訪問しているのは素晴らしい。

### 【信頼される学校づくりについて】

- 今年度、運動会が春開催となり保護者からいろいろな意見をもらったが、春開催のメリットやこの時期にできる内容などを保護者にPRした方がよい。
- 先生がいかに普段から頑張っているかを保護者に見てもらうために、一日公開日を設けてはどうか。

## 関係者評価を受けての改善策

関係者評価を受けての改善策は以下の通りである。

### 【「知」知育向上プランの改善策】

- 今後も生成AIも含めたICTの活用を進め、教材研究や児童理解に努め、質のよい授業を実践していく。
- 「家庭学習の手引き」については、今後も児童の実態に応じて作成し、保護者に周知していく。

### 【「徳」徳育向上プランの改善策】

- 特別活動においては、主体性向上に向け、教師の指示で活動するのではなく子供たち自身でよりよい活動を作り上げられるような体制を構築していく。
- いじめ予防については、「心の日」をはじめとした「心の教育」を充実させるとともに、未然防止の対策の一つとして、子供同士でトラブルを解決できる力を育成していく。

### 【「体」体育・安全向上プランの改善策】

- 食育指導については、今後も継続して、学年に応じた内容について適切な時期に指導していく。

### 【信頼される学校づくりの改善策】

- 運動会の目標や内容等について、学校だよりやさくら連絡網で保護者に伝えていく。
- 来年度の参観会をはじめとした公開日については、そのねらいや他の行事との兼ね合いを考慮しながら、職員で協議を重ね決定していく。

いただいた御意見をふまえ、令和8年度の学校経営構想をまとめ、2月17日（火）に行われた第5回学校運営協議会の際に、承認を受けた。